

## 2006年度愛知大学東亜同文書院大学記念センター オープン・リサーチ・センター活動報告

### 1. 安澤隆雄氏を招いての講演会

愛知大学の前身にあたり、戦前に中国・上海にあった東亜同文書院（1939年大学に昇格）の卒業生である安澤隆雄氏（東京都八王子市に在住）による講演会「東亜同文書院と我が生涯の100年」が、2006年7月22日（土）に豊橋校舎で開催されました。この講演会は、本学東亜同文書院大学記念センターのオープン・リサーチ・センター事業（文部科学省選定）の第一弾として、会場に120名の参加者を迎えて行われました。

安澤氏は東亜同文書院に1925（大正14）年に入学した第25期生で、講演会では書院入学時から大学での寮生活、勉強方法や内容、年中行事、卒業前の中国調査旅行（雲南からミャンマーに至る徒歩による調査旅行）での苦労話に加え、現在に至るまでの多彩な人生の逸話も披露しました。

特に、大旅行の部分は、1928（昭和3）年5月に発生した済南事件によって排日気運が濃厚となる中、当初の予定だった、雲南から四川へ抜けるコースをミャンマーに変更した経緯が語られ、歴史的な緊迫感が感じられました。

講演後、会場からは活発に質問が出され、安澤氏の講演、さらには東亜同文書院に対する関心の高さがうかがわれました。特に、大旅行時の予算についてなど、文献に記述が少なく、当事者の話

でしか知ることができない内容についても活発に質疑応答がなされました。

最後に花束贈呈と、元書院生の方々による「嵐吹け吹け」（最上級生が大旅行に出発する際に先輩が校門で贈る歌）が熱唱され、感動と盛会のうちに講演会は終了したのでした。



### 2. 第8回図書館総合展における特別展示会 とフォーラムの開催

2006年11月20日（月）から22日（水）の期間、横浜市のパシフィコ横浜で開催された「第8回図書館総合展」で、東亜同文書院大学記念センターは特別企画の展示会・フォーラムを開催しました。記念センターは、2006年度よりオープン・リサーチ・センター事業の一環として講演会のほかに、記念センターが所蔵する東亜同文書院（大学）関係資料、ならびに孫文・辛亥革命と彼の協



力者だった止田良政・純三郎兄弟に関わる資料の公開展示も、5年間にわたり国内各地で行っていく予定であり、図書館総合展への出展がその第1回目となります。

図書館総合展は、図書館に関わるさまざまな企業、関係者を集めて最新情報の提供と情報交換を目的とする大規模な総合展であり、今回愛知大学は大学として初めてブースを出展しました。会場には3日間で過去最高の22,000人を超える来場者があり、本学の展示ブースには延べ2,000人以上が訪れ、展示資料や刊行物を見学されました。また、東亜同文書院（大学）の卒業生や遺族の方、本学卒業生や在学生も多数訪れました。

記念センター出版物も人気で、今回ブースで販売した図書のうち、『愛知大学東亜同文書院大学

記念センター収蔵資料図録』などは完売となりました。

21日（火）には本学主催のフォーラムを開催しました。講師には安彦良和氏（漫画家、神戸芸術工科大学教授、藤田佳久氏（愛知大学文学部教授、記念センター長）、ロナルド・シュレスキー氏（Ronald Suleski、ハーバード大学フェアバンク東アジア研究所副所長）の3名を迎え、「海を渡った若者たち」のテーマでご講演頂きました。定員を上回る200名以上の参加者で会場は満席となりました。

### 3. ロナルド・シュレスキー氏を招いての講演会

図書館総合展の本学主催フォーラムで講演された、ロナルド・シュレスキー氏は図書館総合展終了直後の11月25日（土）、愛知大学豊橋校舎に来学し、「満州の青少年像」という題名で再び講演会を開催しました。

満蒙開拓少年義勇軍（1938年1月に拓務省によって創設）として、満州の国防強化、国土開発、国内農村の人口問題を解決するという目的で、日本の農村から満州に送り込まれた数え年16～19歳の青少年たちが、過酷な労働や粗末な食事などの劣悪な環境の中で生活していたという実態が明らかにされました。また、こうした困難の中で1939（昭和14）年5月に義勇軍同士が衝突した「昌図事件」についても言及され、義勇軍に参加し



た青少年たちの過酷な姿が鮮明となりました。

シュレスキー氏は流暢な日本語で講演しました。また、愛知大学名古屋（三好）校舎のICCS（国際中国学研究センター）招聘の中国からの研究者や、本学で学んでいる中国人留学生も参加し、通訳を務める留学生によって日本語から中国語に翻訳されるシュレスキー氏の話聞いていました。

#### 4. 殿岡晟子さんを招いての公開研究会

2006年12月7日（木）午後、「我が父本間喜一と愛知大学・東亜同文書院大学を語る」と題して、愛知大学東亜同文書院大学オープン・リサーチ・センター主催による、本間喜一愛知大学名誉学長の長女・殿岡晟子（あきこ）さんを招いての公開研究会が愛知大学で行われ、本間喜一氏が最後の学長を務めた東亜同文書院大学の敗戦前後の状況や、愛知大学創立、愛知大学史上の大事件といえる愛大事件（1952年）や、薬師岳遭難（1963年）などについて語られました。

本間氏は、敗戦後の1946（昭和21）年3月に団長として学生たちを引率して引き揚げた際、書類の携帯が許されていなかったにもかかわらず、旧東亜同文書院大学の学籍簿・成績簿を決死の覚悟で日本に持ち帰ったこと、帰国後は引き揚げ学生を収容するために大学設立に尽力し、横田忍豊橋市長の協力などもあって、準備期間わずか半年で愛知大学が誕生したこと、しかし、戦時中に学生たちを戦場に送り出した責任を感じて、初代学長には就任しなかったというエピソードなどが紹介されました。

また、警察官が大学構内に立ち入ったことで学生との間にいざこざが生じ、学生側に逮捕者が出た愛大事件では、学生たちの無実を信じて裁判に毎回出席し、長期間におよぶ裁判で学生たちの弁護活動に尽力したこと、冬の薬師岳で山岳部員13名が遭難した時には、大学がつぶれても救助を優先させるという決意と、「人の命は地球より

も重い」という認識で捜索活動を指揮し、遭難の責任を取って学長を辞任したという、本間氏の人格がうかがえる貴重な話を聞くことができました。

講演中、東亜同文書院大学予科で学び、戦後予科修了証が発行されたために京都帝大に無試験で入学できたという方が、本間氏への熱い想いを語る場面もありました。

殿岡さんはユーモアを交えて話を進め、30余名の学内外の参加者は時折笑みを浮かべつつ、熱心に殿岡さんの話に聞き入っていました。



#### 5. 今泉潤太郎氏を招いての公開講演会

2007年1月26日（金）午後、愛知大学オープン・リサーチ・センター主催の公開講演会が愛知大学で開催され、今泉潤太郎愛知大学名誉教授が「『華語萃編』から見た同文書院の中国語教学」という題で講演されました。

東亜同文書院の概略が説明された後、同文書院の中国語教師による「華語萃編」について説明がなされました。「華語萃編」は初集（1年生）、第二集（2年生）、第三集（3年生）、第四集（4年生）の4冊があり、しかし当初は全てが揃っておらず、全学年が初集から第四集までを通して中国語を勉強するようになったのは1930年代になってからであったということ、発音表記も初めはウエード式ローマ字だったのが注音字母（ポポモフォ）に変わったというような、知られざる「華語



萃編」の歴史が明らかにされました。

同文書院の中国語教育については、文法解説による教育よりも文章の暗記が要求され、特に重念を強調した暗誦は学生にとって極めて厳しいものであったことが述べられました。

また、「華語萃編」は敗戦で東亜同文書院大学が閉校となっても消えることはなく、戦後の愛知大学でも油印本として使用され、縦書きから横書きへ、発音表記も戦後の中国で登場したピンインに変化しつつも、1963年まで中国語教科書として使用されたというような、「華語萃編」の歴史の変遷についても紹介されました。

公開講演会には愛知大学で中国語を担当している教員や中国人教員、中国語を研究している大学院生なども参加し、東亜同文書院での中国語教育などについての質疑応答が行われました。



## 6. 大学史方面の二つの研究会

2006年度末の3月、東亜同文書院大学記念センター「大学史」部門（責任者 大島隆雄名誉教授）によるふたつの公開研究会が、同じ愛知大学豊橋校舎研究館の同じ会議室を会場にして、2週連続で相次いで開催されました。

まず10日（土曜日）に、2006年度秋学期より新たに名古屋（三好）校舎で開講された総合科目「大学史」（リレー講義）の報告会として、シンポジウム「世界と日本の大学史の流れの中での東亜同文書院と愛知大学」が、同講義の担当者7名によって行われました。大学という教育機関を歴史

の客体として捉えた「大学史」講義は、数年前から各大学で実践されはじめていますが、対象を自らの大学に絞ったものと、日本、さらには世界全体の大学の歩みとして位置づけているものに分かれているようです。本学ではまず双方を包含する形で試みたものでして、前半は欧米及び日本における大学の形成過程、後半は東亜同文書院を含めた愛知大学の歩みについて、各方面の関連教員のみならず、それぞれの節目に立ち合っていた卒業生も交えて報告がなされ、その後活発な討論が展開されました。

続いて1週間後の17日（土曜日）には、研究会「世界大学史と愛知大学」が、法学博士・酒井吉榮名誉教授を講師にして行われました。酒井氏は早くより大学史に着目し、欧米近代大学の原型的存在のベルリン（フンボルト）大学と、本愛知大学のそれぞれの成立過程には近似性が見られるとの学説を提示していた人でして、ここではそこから世界の大学史の中での愛知大学の位置づけについての紹介をしました。また、60年を経た現在においても輝きを失わない先見性があると評価されている「愛知大学設立趣意書」（豊橋・名古屋両校舎の「自由受難の鐘」の下に、同書の文言を刻んだ石碑があります）の起草者について、『愛知大学五十年史』などの公式の年史とは別の説を展開しました。ただ酒井氏はすでにご高齢のため、講演・質疑応答とも予定より若干早く切り上げることになりましたが、参加者に考えさせるものが多い講演でありました（酒井氏の娘婿でもある大林文敏愛知大学教授が、会場で酒井氏の介助を務めて下さったことを付言します）。

両会とも関係者の助力もありまして、予想以上の参加者を得たことは収穫でありましたが、共通のテーマ「世界的な大学史と本学史との関連性・整合性」については討論の際疑問の声が（本学関係者によって）あがったりして、まだまだ検討や議論の余地のあるところでありましょう。しかし、本学での「大学史」講義は今年度より豊橋校舎で

もスタートすることになり、またシンポジウムでの討論や酒井氏の学説が大学史紀要『愛知大学史研究』に掲載されることが予定されている今、す

でに矢は放たれているのでありまして、これを機により多くの関係者に「大学史」への関心や理解を持ってもらうことを願うところです。



「大学史」 講義シンポジウム



酒井氏を講師に招いた研究会

2006年度愛知大学東亜同文書院大学記念センター活動状況

○活動状況

月	日	イベント名	テーマ	講演者	会場
7	22	講演会	「東亜同文書院と我が生涯の100年」	安澤隆雄	豊橋校舎 本館5階第3・4会議室
9	8~29	写真展・パネル展	「近代豊橋の歴史を彩る人々たち 本間喜一と愛知大学創成期」		豊橋校舎 記念会館ガーデンサロン
11	13~22 27~ 12/16	創立60周年記念写真・パネル展	「愛知大学創成期の群像 地域と共に60年」		豊橋・車道・名古屋各校舎
11	20~22	第8回図書館総合展	知を愛する者が集う愛知大学の展示会—のこされた東亜同文書院大学の資料を追う—		パシフィコ横浜展示ホールC
11	21	第8回図書館総合展特別フォーラム	「海を渡った若者たち」	第一部安彦良和 第二部藤田佳久 第三部Ronald Suleski	パシフィコ横浜アネックス ホール第5会場
11	25	講演会	「満州の青少年像」	Ronald Suleski	豊橋校舎6号館620教室
12	2	公開研究会	「小岩井浄と人民戦線」	藤城和美	豊橋校舎 本館5階第3・4会議室
12	7	公開研究会	「我が父本間喜一と愛知大学・東亜同文書院大学を語る」	殿岡晟子	豊橋校舎 研究館1階第1・2会議室
1	26	公開講演会	日本における中国語教育の源流「華語萃編」から見た同文書院の中国語教学	今泉潤太郎	豊橋校舎 研究館1階第1・2会議室
3	10	公開シンポジウム	「世界と日本の大学史の流れの中での東亜同文書院と愛知大学」—初の「大学史」講義を終えて—	北嶋繁雄・太田明・大島隆雄・小崎昌業・豊島忠山田眞郎・佃隆一郎	豊橋校舎 研究館1階第1・2会議室
3	17	公開研究会	世界大学史と愛知大学	酒井吉栄	豊橋校舎 研究館1階第1・2会議室

○会議関係

月	日	内容	会場
7	25	第1回運営委員会	豊橋校舎 本館5階3会議室 名古屋校舎 研究館2階第1会議室
10	14	第2回運営委員会	豊橋校舎 本館5階3会議室
11	8	大学史関係小委員会	研究館1階第4会議室
12	6	第3回運営委員会	豊橋校舎 研究館1階第1・2会議室 名古屋校舎 研究館2階第4会議室
3	7	第4回運営委員会	豊橋校舎 研究館1階第1・2会議室 名古屋校舎 研究館2階第4会議室

## 東亜同文書院記念センター展示室利用状況（2006年度）

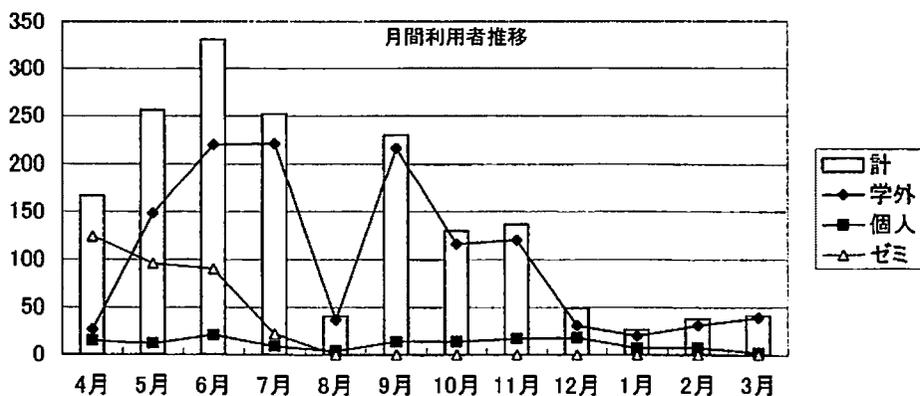
2007年3月31日現在

	学外	学内		(団体数)	計	(うち 外国人)	
		個人	ゼミ				
4月	27	15	124	5	166	5	(ゼミ5クラス)
5月	148	12	96	5	256	8	(ゼミ4クラス)
6月	220	21	90	10	331	6	(ゼミ5クラス)
7月	221	9	22	3	252	9	(ゼミ1クラス)
8月	37	4	0	1	41	3	
9月	216	14	0	5	230	10	
10月	116	14	0	2	130	34	
11月	120	17	0	3	137	50	
12月	31	18	0	0	49	8	
1月	20	7	0	0	27	1	
2月	31	7	0	0	38	10	
3月	39	2	0	0	41	3	
計	1,226	140	332	24	1,698	147	

※授業での利用はすべてゼミとする。

### <予約参観記録> (敬称略)

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 5月13日 くすの木会 見学会 (100名)     | 10月17日 結書房 中澤俊子 (1名)     |
| 6月1日 新城東高校生徒 (40名)         | 10月26日 愛大卒業生 (9名)        |
| 6月3日 名古屋市職労現業評議会 (37名)     | 10月30日 中国青年指導幹部視察団 (30名) |
| 6月3日 短大後援会オープンキャンパス (28名)  | 11月6日 南部中3年生 (14名)       |
| 6月5日 南部中3年生 (10名)          | 11月13日 大学院卒業生家族(8名)      |
| 6月9日 西尾東高校PTA (50名)        | 11月25日 ICCSワークショップ(45名)  |
| 6月15日 沖縄大 又吉盛清 (3名)        |                          |
| 7月4日 東奥日報 松田修一 (1名)        |                          |
| 7月22日 展示室説明会 (40名)         |                          |
| 7月28日 西尾東高校キャンパス見学会 (160名) |                          |
| 9月12,13日 栄小学校 (4クラス154名)   |                          |
| 9月29日 はづき会 (10名)           |                          |



※ 以上は事務室の確認できたものに限る